

出題分析		
試験時間 90 分	配点 学部により異なる	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 <b>同程度</b> 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 <b>同程度</b> 難化〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>例年出題されていた思考力・考察力で得点差が生じる問題が出題されていなかったため、計算問題を苦手とする受験生には易化、高校教科書の欄外に説明が記載されているような他大学ではほとんど出題されない用語を解答する問題も出題されていたため、暗記問題を苦手とする受験生には難化であったはずですが、各学部・各学科の合格最低点は昨年と同程度の得点ではないかと推測します。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	非金属元素の単体・化合物の性質，気体溶解度，溶解平衡，金属イオンの分離操作など	高等学校で使用している教科書で取り扱われている内容およびそれらの原理・知識から「理由」を記述する問題も出題されています。教科書を中心に学習していれば，現役受験生でも高得点を獲得できたと思います。	標準
2	アミノ酸，タンパク質，核酸，合成高分子化合物など	高分子化合物の単元からの出題ですが，推理・考察が必要な問題はなく，教科書で学習している反応，基本理論，計算，化学用語，物質名のみの出題でした。教科書を中心に学習して用語や反応を暗記していた受験生が高得点を獲得できたと思います。	標準
3	芳香族化合物の性質と反応，化学平衡，油脂・界面活性剤の性質と反応	問3と問6で出題された化合物Aのように，「昇華しやすい」→「分子間力が弱い」→「クーロン力が分子間に働かない無極性分子」→「 <i>p</i> -ジクロロベンゼン」と推理しても，「防虫剤」→「ナフタレン or <i>p</i> -ジクロロベンゼン」を教科書の学習から正確に暗記していても同じ得点になるところが新潟大化学の良いところです。	標準
4	塩の分類，電気分解，金属化合物の性質と反応	問1～問5では塩の分類，電気分解に関する基本知識と基本計算が，問6，問7では無機物質の性質と反応が出題されましたが，現役受験生でも高得点を獲得できたと思います。	標準

#### 合格のための学習法

新潟大入試の問題は、作問者が高校教科書を参照しながら作成している問題です。これらの問題を解くためには、高等学校で使用している『化学基礎』、『化学』の教科書を高等学校の授業で取り扱われなかったページも含めて学習し、理論や反応、計算方法を正確に定着させることが最も大切です。教科書本文の説明、記載されている物質名と化学式、計算例などを丁寧に読み直し、すべての単元の例題や章末問題を完答できる学力を身につければ、満点には届かないかもしれませんが、合格点は必ずクリアできます。